**タイトルMS明朝14pt。サブタイトルを含めて3行以内。**

**※別途様式にて英文タイトルを提出**

執筆者氏名1)番号右肩付け・執筆者氏名2）

1)執筆者所属（住所）MS明朝9pt

2)執筆者所属（住所）

要旨

MS明朝10.5pt。

行間14pt。

5行以内。

※別途英文要旨を提出。

キーワード

　MS明朝10.5pt、下線、3～8単語、句点つなぎ、英文キーワードも別途提出

（段組み前に空行1行確保）

1.フォーマットの基本情報

　本フォーマットの対象は「総説」「原著論文」「調査研究」の3種類である。

本文フォント：MS明朝10pt。行間14pt。

　2段組み。余白は上左右25㎜、下20㎜。

句読点は「、」「。」「,」「.」のいずれを使用しても良いが、本文中では統一して使用すること。ただし本文中でも和文・欧文の別がある場合は使い分けて良い。

2.見出しの構成

2-1.小見出しMSゴシック10pt

　見出し・小見出しともMSゴシック10pt。

見出しの前は1行空ける。

　小見出しの前の空行は必要に応じて設ける。

　小見出しは必要に応じて増やし、統一性を持ったナンバリングを付す。

　例）第一レベル「1.」第二レベル「1.1.」第三レベル「1.1.1.」

3.図表について

　図及び表は本文に埋め込み、カラーは使用しない（白黒印刷を前提で作図すること）。図は300dpi程度の高解像度のものが望ましい。

　図表の幅は2段組みの幅に揃えるか、それより狭くする。ただし必要に応じて1頁幅の図表を使用しても構わない。

　前後の空行やサイズは状況に応じて編集する可能性がある。

本文中に表として直接記入している場合を除き、元のファイルを別途提出すること。

4.引用文献・注

文献の引用および注は本文に現れる順に該当箇所の右肩に番号を「１）」のように付け、本文の末尾にまとめて番号順に記載する。脚注は使用しない。文献の書式は以下の例を標準とするが､著者の所属学会等の書式を使用してもよい。

著書（和書）の場合

１）黒木登志夫 (2015). iPS細胞 不可能を可能にした細胞．中央公論新社．

著書の一部（和書）の場合

２）佐藤宣子 (2003). 森林所有の構造変化と地域特性．林正紘（編）森林資源管理の社会化．九州大学出版会，pp.124-134.

著書（欧文）の場合

３）Howard, E. W. (1965). Garden Cities of To-Morrow. MIT Press.

著書の一部（欧文）の場合

４）Tyshchuk, Y., Li, H., Ji, H. & Wallace, W.A. (2014). The emergence of communities and their leaders on Twitter following an extreme event. In: Missaoui, R. & Sarr, I. (eds.) Social Network Analysis - Community Detection and Evolution. Springer, pp.1-26.

雑誌論文（和文）の場合

５）松田雅裕，益川浩一 (2018). 学校と地域との連携についての学校管理職の意識．地域志向学研究，2, 6–11.

雑誌論文（欧文）の場合

６）Foorman, B. & Goodman, F (2007). Primary prevention in classroom reading instruction. Teaching Exceptional Children, 39, 24–30.

ウェブサイトの場合

７）岐阜大学地域協学センター

http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp/ccsc/index/

education（2018年10月取得）